



コロナ禍が示した 「国民皆保険」の重要性

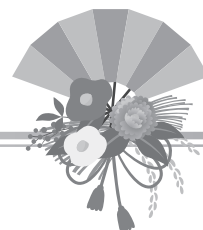
明けましておめでとうございます。令和3年の新年を迎えるにあたり、会員の先生方におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年は何と言っても新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）の世界的な大流行によって、世の中の状況が一変した年であったと言えます。緊急事態宣言が発令され、外出自粛や休業要請も行われ、生活様式の変容を余儀なくされました。いわゆる3密を避け、手洗い、うがい、マスクの着用が常識になるとともに、多くの企業でテレワークの導入が進み、働き方もこれまで以上に多様となりました。本会でも感染防止のため、ウェブを活用した会議や研修会の実施にも努めて参りました。感染の急速な拡大に伴い、病床不足が深刻化し、都市部を中心に医療崩壊の危機にも直面しました。医療従事者の疲弊が増すとともに、感染症患者を受け入れた病院だけでなく、受診控えによって多くの医療機関の経営

にも暗い影を落としました。

政治では安倍政権を継承した菅政権が昨年9月に発足して3カ月余りが経過しました。新政権は規制改革やデジタル改革を1丁目1番地と位置付けて、デジタル庁の創設や縦割り行政の打破を進める方向性をはっきり打ち出し、スピード感をもって実行に移そうとしています。既に医療分野では課題を抱えたまま初診からのオンライン診療も恒久化されることが決まり、今年3月からはマイナンバーカードを活用したオンライン資格確認もスタートする予定で、デジタル化が一挙に進みそうな情勢であります。

新型コロナを契機として、これほどまでに地域の医療体制の大切さが国民に意識されたことはありませんでしたし、地域医療を支える国民皆保険制度は社会的共通資本としてその重要性が再認識されたと言っても過言ではありません。同時に、多くの国民は日常的に診療や健康相談に応じてくれる“かかりつけ



大阪府医師会長
茂松 茂人



医”を持つことの重要性に気付かれたと思います。本会ではこれまでも増して国民から信頼される“かかりつけ医機能”を発揮できるよう、その能力の維持・向上に努めて参る所存であります。

一方、これまでの新型コロナへの対策で多額の国費が投入され、政府の債務残高は膨張しており、感染収束後は緊縮財政に舵を切り、国民に給付削減や負担増を強いる改革は避けられないとの指摘もあります。来年予定される診療報酬改定への影響も懸念されます。しかし、それによって社会保障の機能が損なわれてしまっは本末転倒で、国民の安心への基盤が崩れてしまうことになりかねません。更には、安倍前政権下での景気拡大は5年11カ月と戦後2番目の長さを記録しましたが、企業の内部留保が大幅に膨らんだ一方で、労働分配率が低下し実質賃金は伸び悩み、非正規雇用者数も増加している状況であります。欧米と同様に日本でも経済格差が深

刻度を増しており、コロナ禍で更に深まった経済格差が医療格差につながることはないよう、国民皆保険制度を維持、強化していかなければなりません。

政権が変わり日医のトップも変わる中で、政治との関係をどう円滑に築いていくかは大きな課題で、一朝一夕にできることではございませんが、先の見通せない時代であるからこそ、我々医師は開業医や勤務医の枠を超えて一致団結する必要があります。

引き続き、「国民医療の充実」「会員のために汗をかく」「組織強化」を念頭に、与えられた使命を果たしていく所存でありますので、会員の先生方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。会員ならびにご家族、職員の皆様方が今年1年ご健勝でご活躍されることを心より祈念申し上げます。



新年のご挨拶

Now or Never



大阪府医師会 副会長

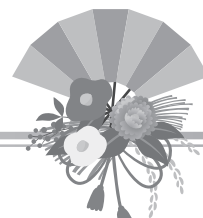
澤 芳 樹

皆様、新年おめでとうございます。茂松会長の下で副会長と勤務医部会長を務めさせていただいております、澤芳樹でございます。大阪府医師会の中であって、大学勤務医師の立場として、地域連携や人材育成、先進医療・高度医療や国際貢献の面から、府医に少しでもお役に立てればと思っております。こういう形で府医の副会長を仰せつかってから早いもので10年が過ぎ、代議員も10年務めさせていただいています。昨年は、春先から、コロナの影響で、これまで人類が経験したことのない日常を強いられた1年でありました。いつか起こるだろうと言われてきた新興感染症パンデミックがこれほどまで世界中を苦しめる状況になろうとは、誰も想像しておりませんでした。そのため、国民の健康を守る医師会の活躍は計り知れないものがあり、本当に医師会の実力を発揮する1年であったのかと思われます。今もまだまだ出口が見えない状況ですが、withコロナ、afterコロナに立ち向かい対応可能なSustainableな新しい世界が築かれていくためにも、府医の果たす役割は、これからますます大きくなるものと思われれます。

私も、教授に就任して15年が経ち、いよいよ

退官を迎えます。心臓血管外科の道を歩んで、40年です。本当に山あり谷ありの苦労の連続でしたが、平成22年に伯井俊明・前府医会長が就任された時に副会長を仰せつかり、伯井先生から色々ご指導いただき、茂松会長に引き継がれても継続して副会長のお役目を仰せつかりました。この10年間の医師会の経験は私にとって大変貴重な経験となりました。そして、私が歩んできた心臓血管外科／再生医療の業績により、このたび紫綬褒章を受章させていただきました。茂松会長をはじめ医師会の先生方にお祝いしていただき、これほど名誉で嬉しかったことはありません。府医の一枚岩の強さと優しさを強く感じました。茂松会長をはじめ、府医の先生方には本当にお世話になるばかりですが、今後とも学術的貢献や働き方改革、専門医制度など少しでも貢献できればと思っております。更に、大学人として勤務医として、今後もコミュニケーションを大切にさせていただきたいと思っております。

令和3年は良い年になることを祈念しつつ、少しでも府医のためにお役に立てるように頑張りますので、何とぞよろしく願いいたします。



コロナ禍において地域医療の確保と医療機関への更なる支援が必要



大阪府医師会 副会長

中尾正俊

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、ご家族とともにご健勝に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

我が国では、今後、後期高齢者の増加により、日常的に医療・介護が必要な人や認知症高齢者など生活に支援が必要な人が増加します。

「高齢者の慢性心不全、脳血管障害が増加する疾病構造の変化に向けて、地域の医療・介護サービスをどのように提供すべきか？」については、昨年10月に循環器病対策推進基本計画が閣議決定され、方向性が示されました。

さて、新型コロナウイルス感染症の流行により、新型コロナ患者を受け入れた医療機関のみならず、新型コロナ患者を受け入れていない医療機関においても、受診控えにより経営は悪化しています。今後も更なる支援が必要と考えており、政府に働きかけていきたいと思っております。更に、複数の医療機関の連携により、感染症以外の医療機能も維持する体制を確保し、国民が必要とする医療をしっかりと提供できる医療提供体制を構築していかなければなりません。

しかし、昨年1月17日に議論の活性化のため具体的対応方針の再検証を要請する公立・公的病院が公表され、その中には、感染症指定医療

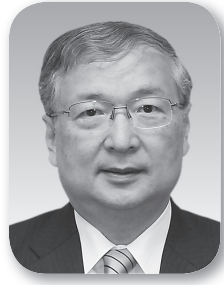
機関など今般のコロナ対応を行っている医療機関も含まれていました。地域医療構想調整会議では、感染症医療を担っている公立・公的医療機関が、今般のコロナ対応で担った役割をきちんと評価すべきと考えています。調整会議において、地域医療構想の実現に向けた具体的対応方針の再検証を議論するにあたり、新型コロナウイルス感染症への対応状況を踏まえた協議が望まれます。

最後になりますが、医療を取り巻く環境は、ますます厳しくなっていくことが予想されます。三位一体改革（地域医療構想・働き方改革・偏在対策）と地域包括ケアの深化・推進に向け、執行部一同会務に励んで参りますので、会員諸兄の更なるご支援とご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のご挨拶

経済優先より、 まずは医療の確保を



大阪府医師会 副会長

高井 康之

明けましておめでとうございます。昨年
は新型コロナウイルスに振り回された1年
でしたが、会員およびご家族の皆様
におかれましては、お元気に新年を
お迎えのことと存じお慶び申し上げます。

中国から始まり、当初日本や東ア
ジアで拡大した新型コロナウイルス感
染症は、グローバルをあざ笑うか
のように、またたく間に全世界に
拡大していきました。かつて人類が
経験したペストやスペイン風邪など
の感染症より非常に短期間で世界
に広がり、利便性や経済優先の現
代社会は、新興感染症に対して非
常に脆弱であることが再認識され
ました。現代において新興感染症
は、対岸の火事では決してなく、
世界が緊密に協力して対策を考え
、対応していくことがますます重
要になると存じます。

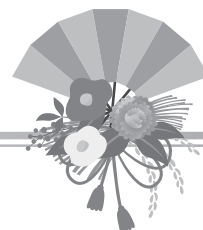
我が国では、欧米諸国に比し人口
当たりの感染者数が比較的少ない
状況でしたが、第1波、第2波、
第3波と進むにつれ感染者数が急
増してきました。政府や知事らは
、感染拡大対策と経済対策は車の
両輪と言ってきましたが、GoTo
キャンペーンに代表されるように
経済重視であったことは否めませ
ん。目先の小手先の経済対策より
徹底した感染対策を優先させ少し

でも早く収束させた方が、経済にと
っても傷が浅く済むのではと思い
ます。

このような状況にあっても、オン
ライン診療の初診までも恒久化す
ることや後期高齢者の窓口負担割
合を2割に拡大するなど、今後の
国民医療に多大な影響を与える政
策を医療関係者や国民の意見を無
視して推進しようとしております
。新型コロナウイルス感染症を恐
れるあまり医療機関への受診控え
が拡大している現状で、これから
ますます受診遅れが増え、新冠
以外の傷病の治療も手遅れになる
ことが懸念されます。

政府や自治体には、医療関係者
や専門家の意見を真摯に受け止
めていただき、医療体制や医療制
度を誤った方向に導かないことを
願うばかりです。

COVID-19に対するワクチンが有
効で安全なものであって、新冠
ウイルス感染症が収束に向かい、
本年が会員、国民にとって幸せ
で明るい1年となることをお祈り
申し上げます。



感染症対策が与えた試練 ——医師会活動が一層重要に



大阪府医師会 副会長

加納 康至

明けましておめでとうございます。1年前には想像もしなかったCOVID-19のパンデミックの中で、例年とは異なった新年をお迎えになったのではないのでしょうか。

この流行で私達は、生活の様々な面で変化を迫られました。安全なワクチンや治療薬の出現がいつになるかは不透明ですが、たとえ開発されたとしても、また「元の生活スタイル」に戻ることは考えにくいと思います。人との接触をできるだけ減らす「スタイル」は、感染防止の面だけではなく、日常生活の利便性を高める面もあると思われるからです。

そのような中で、私達医療に携わる者は、流れに流されるのではなく、本当に必要な変化は何かを見極めていくことが大切だと思っています。ご存じのように一度変えられた制度は元には戻せないからです。例えば、診療のオンライン化は有事における緊急避難的運用や遠隔地医療などにおける有用性は認められていますが、日常診療での運用には解決すべきことがたくさんあります。ICTの活用や情報のデジタル化は、セキュリティーの不確実性や、情報の集積化によって管理社会、ひいては監視社会につながるのではという危惧があります。今回の感染症対策における試練は、我々が今後考えていく

べきことは何かということを考えさせてくれる良い機会だと思いたいです。

ここ数年の問題であった、医師の働き方改革、地域医療構想、専門医制度の問題、医療保険制度における給付と負担のバランスなど解決すべき課題は、修正が必要であることは明らかで、医師会の考え方、政府や国民への働きかけ方がますます重要になります。一方「医師会の活動」の中にも新たな対応が必要なものも出てきました。昨年は人の集まる行事・事業の多くが中止や延期せざるを得ませんでした。庶務担当としては、ICT環境の整備にもっと積極的にあればという反省をしながら、現在はリモートで行える会議や講演会、講習会に対応できるよう準備、かつ試験運用など環境整備中であります。このような環境が整うことで、ほかの担当業務についても対応に遅れが生じたり、ご不便をおかけすることが減らせるのではないかと考えております。もちろん、セキュリティーには万全を図りながらですが。

本年もこの難局を乗り切るべく頑張ってください。皆様のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。